

2009年認定看護師認定更新者 活動状況調査結果概要

調査結果のポイント

■認定看護師認定更新者の属性

- ・ 所属施設は約9割（88.2%）が病院であり、設置主体は「都道府県・市町村」、「日本赤十字社」の順であった。また、病床規模別では「900床以上」に所属する者が最も多く、半数以上（58.0%）が「がん診療連携拠点病院」に所属していた。[表2～5]
- ・ 職位は「主任相当」が41.2%と最も多かった。看護師長以上の職位（看護師長相当及び副看護部長相当）は2回目（10年目）更新者が、1回目（5年目）更新者に比べ多かった。[表6]
- ・ 配属部署は当該認定看護分野との関連がある部署が81.8%であった。[図1]
- ・ 一般病棟より独立した部署での専従ポジションにて活動しているのは全体の34.7%の者で、分野別にみると皮膚・排泄ケア（60.7%）、感染管理（53%）は半数以上を占めていた。[図2]

■活動状況

- ・ 病院に所属する者のうち当該分野の認定看護師が携わる看護外来が「ある」と回答した者は37.3%であった。[図3]
- ・ 所属施設内において「施設内（全体）」で活動している者は5年前と比較し、増加した（37.1%→64.7%）。
- ・ 所属施設外にて活動している者は5年前と比較し増加した（62.9%→81.2%）。所属施設外での活動内容は「執筆・講演・講師等依頼」が5年前も現在も最も多く、続いて「認定看護師教育機関における講師・実習指導等」「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」がそれぞれ増加した。[図4～6]

■活動の推進力となるもの

- ・ 認定看護師としての活動の推進力となるものについて、「活動に対する組織経営層の理解・評価」「活動に対する看護部長の理解・評価」が約半数（51.2%）で最も多かった。次いで「活動に見合う昇給」（37.1%）、「認定看護師とのネットワーク」（28.8%）と続いた。[図7]
- ・ 認定看護師手当の支給がある者は全体の24.7%であり、支給額（月額）は5000円未満が42.9%と最も多く、続いて1万円以上が33.3%であった。[図8]

■認定看護師に求められる能力、知識、技術について

- ・ 現在所属施設において特に期待される役割として、全分野を通して認定看護師の役割の1つである実践（個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する）について期待されていた。また、チーム医療を推進していく上で多職種との調整を図るとともに、リーダーシップを発揮していくことも期待されていた。[表9～17]

I. 調査概要

1. 調査目的： 認定看護師の活動状況などの実態を把握すると共に、今後の活動指針策定に資する基礎資料とする。
2. 調査対象： 2009（平成21）年に認定更新を受けた認定看護師360名（表1）
3. 調査時期： 2009年6月8日～2010年1月3日
4. 調査方法： 自記式調査票の郵送配布及び回収にて行った。
※本調査の実施にあたっては日本看護協会研究倫理委員会による倫理審査を受け承認されている。
5. 回収状況： 有効回収数170（有効回収率47.2%）（表1）

表 1. 認定看護師認定更新者活動状況調査 分野別調査対象及び回収状況

	配布数	回収数			計	回収率 (%)
		更新 1 回目	更新 2 回目	更新回数不明		
救急看護	36	8	3		11	30.6
皮膚・排泄ケア	98	20	35	1	56	57.1
集中ケア	65	18	13		31	47.7
緩和ケア	25	6	4	1	11	44.0
がん化学療法看護	43	11			11	25.6
がん性疼痛看護	19	12	5		17	89.5
感染管理	37	17			17	45.9
糖尿病看護	26	13			13	50.0
不妊症看護	11	3			3	27.3
計	360	108	60	2	170	47.2

II. 認定看護師認定更新者の属性

1. 所属施設の概要

所属施設は病院に所属する者が 150 名 (88.2%) であった (表 2)。また、教員として教育機関に所属する者は 8 名 (4.7%) であった。病院の設置主体別所属数は「都道府県・市町村」が 31 名 (20.7%) と最も多く、次いで「日本赤十字社」21 名 (14.0%)、「学校法人」20 名 (13.3%) と続いた (表 3)。また、病床規模別所属数は「900 床以上」の施設に所属する者が 25 名 (16.7%) と最も多く、「400～499 床」と「500～599 床」が同率で 23 名 (15.3%) と続いた (表 4)。病院種別では「がん診療連携拠点病院」に所属する者が 87 名 (58.0%)、「特定機能病院」が 64 名 (42.7%)、「地域医療支援病院」と「災害拠点病院」がそれぞれ 61 名 (40.7%) であった。(表 5)

表 2. 認定看護師認定更新者 所属施設種別 (n=170)

分野	病院	その他	合計
救急看護	11	0	11
皮膚・排泄ケア	43	13	56
集中ケア	30	1	31
緩和ケア	9	2	11
がん化学療法看護	10	1	11
がん性疼痛看護	16	1	17
感染管理	17	0	17
糖尿病看護	12	1	13
不妊症看護	2	1	3
全体	150	20	170
割合 (%)	88.2	11.8	100

表 3. 認定看護師認定更新者 設置主体別所属数 (n=150)

設置主体	人数	割合 (%)
都道府県・市町村	31	20.7
日本赤十字社	21	14.0
学校法人	20	13.3
その他の法人	19	12.7
国立大学法人	16	10.7
医療法人	11	7
国	8	5
公益法人	4	3
社会保険関連団体	4	3
済生会	4	3
その他	10	7
無回答	2	1
全体	150	100

表 4. 認定看護師認定更新者 病床規模別所属数
(n=150)

病床規模	人数	割合 (%)
20～99	2	1
100～199	1	1
200～299	13	8.7
300～399	20	13.3
400～499	23	15.3
500～599	23	15.3
600～699	22	14.7
700～799	12	8.0
800～899	8	5
900 以上	25	16.7
無回答	1	1
全体	150	150

表 5. 認定看護師認定更新者 施設基準別所属数
(n=150・複数回答)

施設基準	人数	割合 (%)
がん診療連携拠点病院	87	58.0
特定機能病院	64	42.7
災害拠点病院	61	40.7
地域医療支援病院	61	40.7
小児救急医療拠点病院	13	8.7
無回答	13	8.7

2. 処遇

1) 職位 (表 6)

現在の職位について尋ねたところ「主任相当」の職位にある者が 70 名 (41.2%) と最も多く、「看護師長相当」が 45 名 (26.5%)、「スタッフ」が 29 名 (17.1%) と続いた。看護師長以上の職位 (看護師長相当及び副看護部長相当) にある者は 2 回目 (10 年目) 更新者 (60 名中 19 名 : 31.7%) が、1 回目 (5 年目) 更新者 (108 名中 28 名 : 25.9%) に比べ多かった。

表 6. 認定看護師認定更新者の職位 (n=170)

職位	人数	割合 (%)
副看護部長相当	3	1.8
看護師長相当	45	26.5
主任相当	70	41.2
スタッフ	29	17.1
教授、講師	3	1.8
その他	15	8.8
無回答	5	2.9
全体	170	100

2) 配属部署と認定看護分野の関連の有無について

配属部署と認定看護分野の関連の有無について尋ねたところ、関連がある部署への配属である者が 139 名 (81.8%)、関連がない部署への配属である者が 26 名 (15.3%) であった。関連がない部署への配属の割合は、感染管理分野 (17 名中 10 名 : 41.2%)、集中ケア分野 (31 名中 5 名 : 16.1%)、皮膚・排泄ケア分野 (56 名中 8 名 : 14.3%) で高く、一般病棟に配属となっている例 (感染管理分野) や管理職として認定看護分野と関連のない部署に配属となっている例 (皮膚・排泄ケア、集中ケア分野) などが挙げられる。

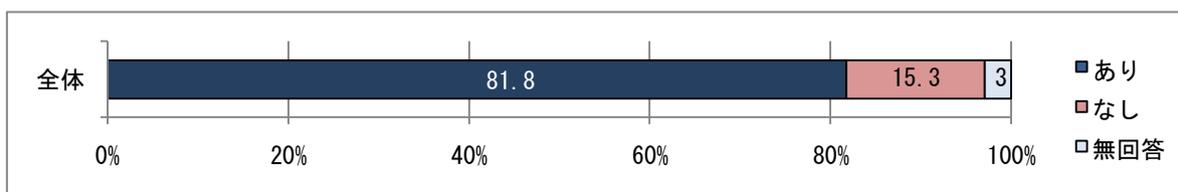


図1. 認定看護師認定更新者 配属部署と認定看護分野の関連の有無 (n=170)

3) 認定看護師としての専従ポジションの有無について (図2)

認定看護師としての専従ポジションの有無について尋ねたところ、一般病棟より独立した部署での専従ポジションにて活動している者が59名(34.7%)、活動していない者が103名(60.6%)であった。分野別にみると皮膚・排泄ケア分野(56名中34名:60.7%)、感染管理分野(17名中9名:53%)は半数以上を占めていた。

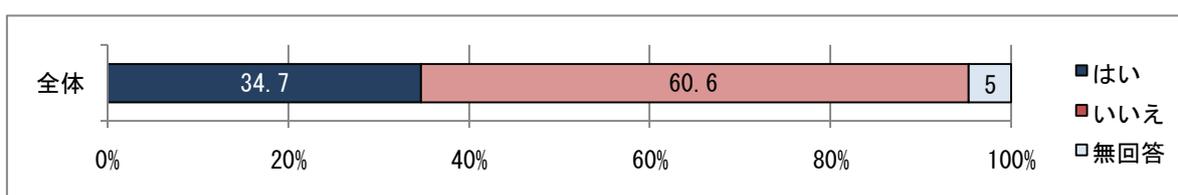


図2. 認定看護師認定更新者 専従ポジションの有無 (n=170)

Ⅲ. 活動状況

1. 看護外来 (図3)

病院に所属する者を対象に当該分野の認定看護師が携わる看護外来の有無について尋ねたところ、「あり」が56名(37.3%)「なし」が93名(62.0%)であった。

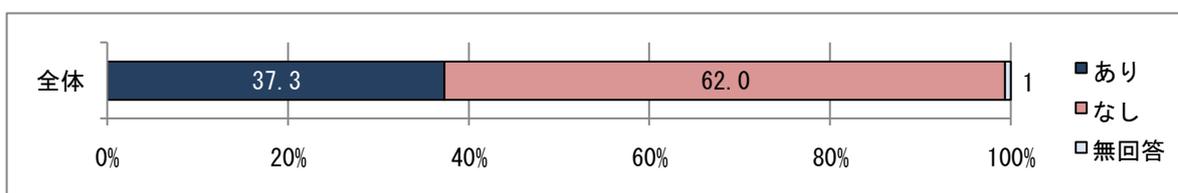


図3. 認定看護師認定更新者 当該分野の認定看護師が携わる看護外来の有無 (病院勤務者対象 n=150)

2. 活動範囲

1) 所属施設内における5年前と現在の活動範囲の変化 (図4)

所属施設内での活動状況について尋ねたところ、「施設内(全体)」で活動している者は5年前の63名(37.1%)から現在の110名(64.7%)へと増加した。

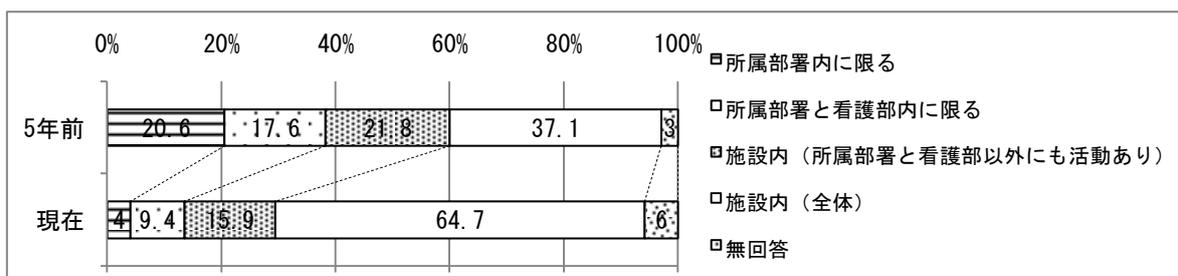


図4. 認定看護師認定更新者 所属施設内における5年前と現在の活動範囲の変化 (n=170)

2) 所属施設外における5年前と現在の活動の変化

(1) 活動の有無について (図5)

所属施設外での活動の有無について尋ねたところ、5年前は「あり」107名(62.9%) 「なし」が58名(34.1%)、現在は「あり」138名(81.2%) 「なし」23名(13.5%)であった。

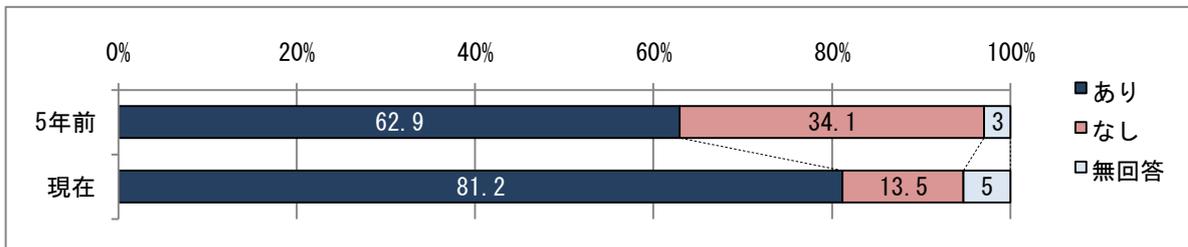


図5. 認定看護師認定更新者 所属施設外における5年前と現在の活動の有無 (n=170)

(2) 所属施設外での活動内容について (図6)

所属施設外での活動内容は、「執筆・講演・講師等依頼」が5年前も現在も最も多く、「認定看護師教育機関における講師・実習指導等」「所属施設以外からのコンサルテーション依頼」が増加している。

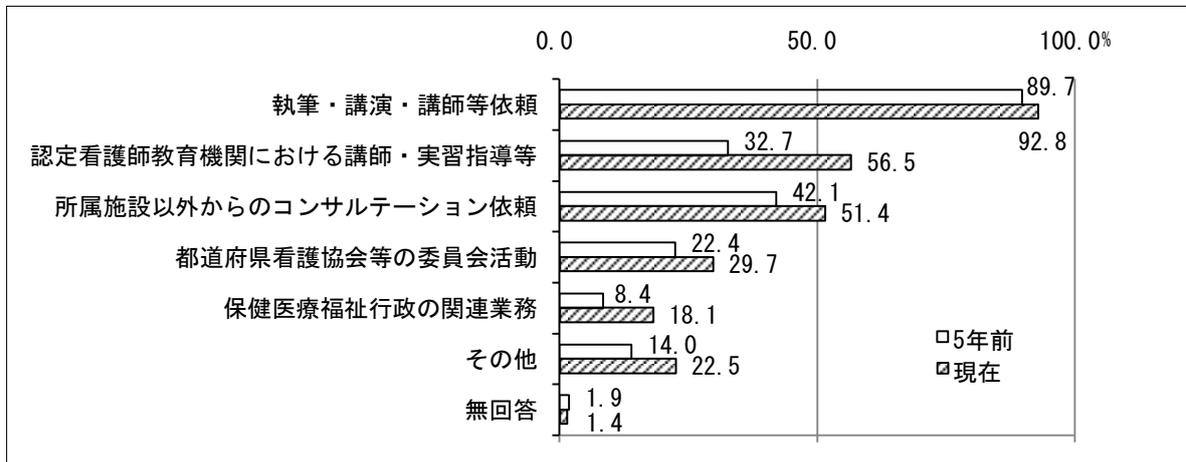


図6. 認定看護師認定更新者 所属施設外における5年前と現在の活動内容

(5年前：n=107、現在：n=138・複数回答)

IV. 認定看護師の評価

1. 活動の推進力となるもの (図7)

認定看護師としての活動の推進力となるものについて上位3つを質問した結果、「活動に対する組織経営層の理解・評価」「活動に対する看護部長の理解・評価」が87名(51.2%)と最も多かった。次いで「活動に見合う昇給」が63名(37.1%)、「認定看護師とのネットワーク」が49名(28.8%)と続いた。

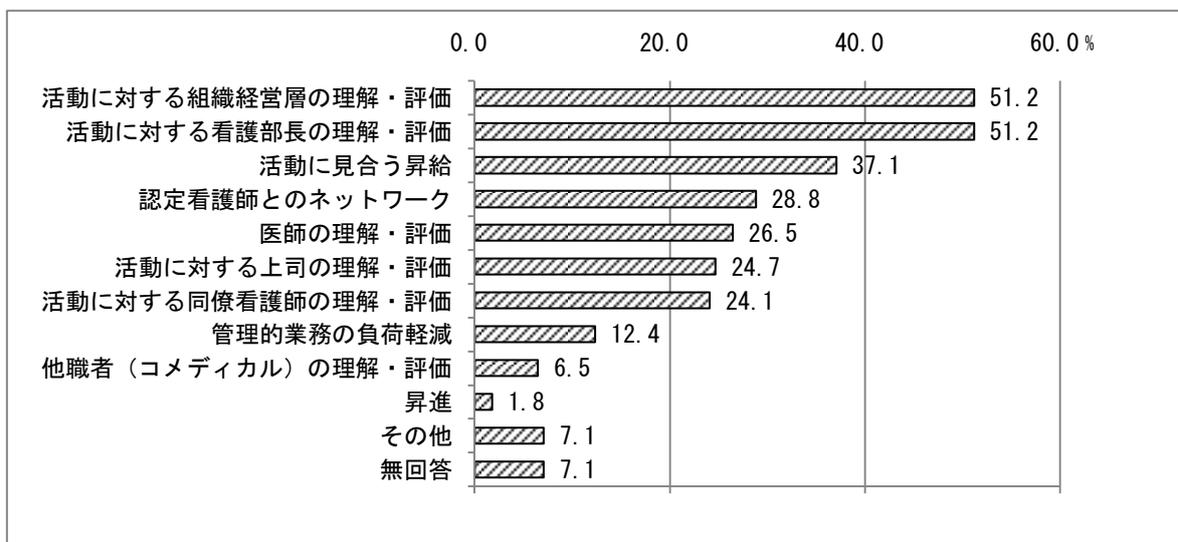


図7. 認定看護師認定更新者 認定看護師としての活動の推進力となるもの (n=170・上位3項目選択)

2. 手当の支給 (図8)

認定看護師手当の支給について尋ねたところ、支給がある者が42名(24.7%)、支給がない者が122名(71.8%)であった。認定看護師手当の月額額は5000円未満が18名(42.9%)、5000円以上1万円未満が8名(19.0%)、1万円以上が14名(33.3%)であった。認定看護師の資格取得後職位が上がり、管理職手当として支給されているものも含まれる。最も高い支給額は月額60000円であった。

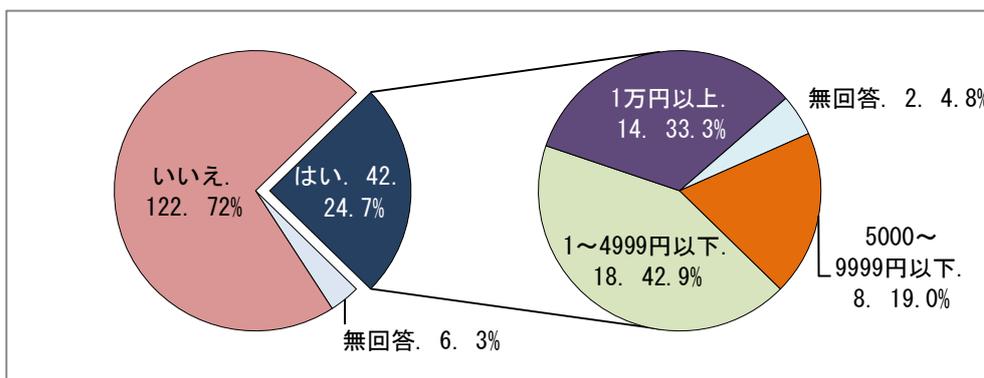


図8. 認定看護師認定更新者 認定看護師手当の支給の有無及び支給額 (n=170)

V. 認定看護師に求められる能力、知識、技術について (図9~17)

認定看護師教育基準カリキュラムに定められている各認定看護分野の期待される能力のうち、現在所属施設において特に期待される役割について尋ねたところ、全分野を通して認定看護師の役割の1つである実践(個人、家族及び集団に対して、熟練した看護技術を用いて水準の高い看護を実践する)について期待されていた。また、チーム医療を推進していく上で多職種との調整を図るとともに、リーダーシップを発揮していくことも期待されていた。

<救急看護>

①	あらゆる状況下で、対象に応じた迅速で確実な救命技術・救急看護技術を実践できる。
②	救急看護実践の場において、リーダーシップを発揮し他の看護師に対して、救急看護実践を通して指導・相談を行うことができる。
③	救急医療現場において、患者の病態を理解し、実在する問題のみならず、予測される問題も把握・判断して臨機応変にケアを計画し、実践できる。
④	他の医療従事者等へ救命技術の指導ができる。
⑤	救急医療現場において、医師および他の医療従事者と情報を共有し、調整的役割を發揮できる。
⑥	災害急性期の医療ニーズを理解し、状況に即した看護を展開できる。
⑦	救急医療現場において、病態に応じた迅速かつ確かなトリアージを実践できる。
⑧	危機状況にある患者・家族の心理的問題を的確に把握し、支援できる。
⑨	患者・家族の擁護者として、相談・調整的役割を果たすことができる。
⑩	研究的視点を持って救急看護実践を評価し救急看護の質の向上に寄与することができる。

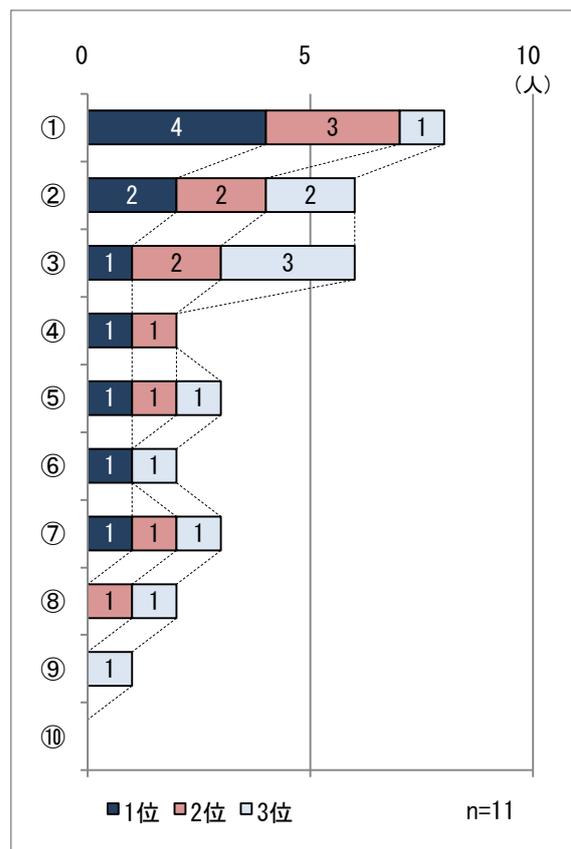


図9. 認定看護師認定更新者 救急看護認定看護師に期待される能力 (n=11・上位3項目)

<皮膚・排泄ケア>

①	専門的知識・技術の研鑽に努め、この分野に秀でた看護モデルとなることができる。
②	医療チームメンバーの一員として、専門的な役割を担うことができる。
③	患者の問題解決に向けて、他の保健医療チームメンバーと情報の交換を行い、相談・調整できる。
④	ストーマケア・スキンケアの質を高めるために患者・家族・重要他者はじめ医療チームメンバーに対し、教育の原理・原則を応用し教育できる。
⑤	褥瘡や瘻孔、ドレーン挿入中の創などの種々の創傷を有している患者に対し、アセスメントを行い専門的なスキンケアと創傷管理ができる。
⑥	ストーマの造設に伴って生じる患者の身体的・精神的・社会的問題を的確に把握し、専門技術を用いて質の高い継続的な看護が提供できる。
⑦	患者・家族・重要他者の相談に対しの確に答え、指導できる。
⑧	失禁のある患者に対して、個人の失禁状態に適した看護を提供できる。

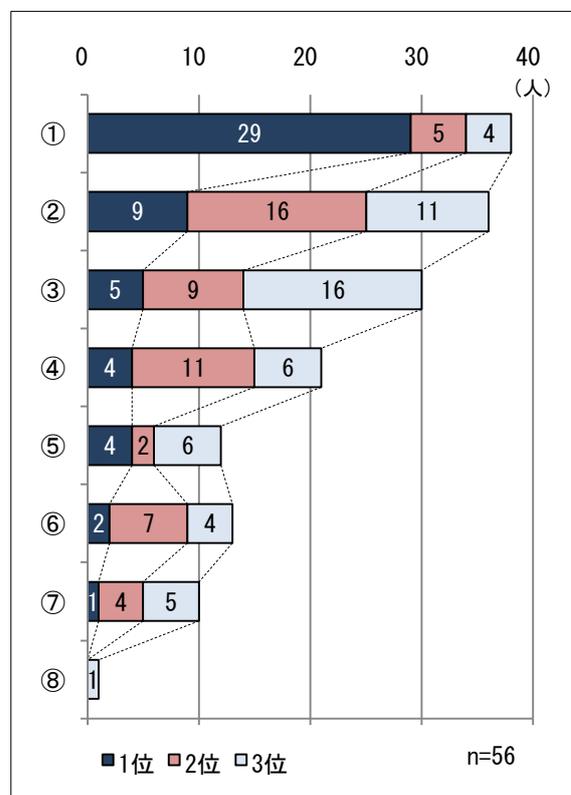


図10. 認定看護師認定更新者 皮膚・排泄ケア認定看護師に期待される能力 (n=56・上位3項目)

<集中ケア>

①	自らが役割モデルとなり、看護実践を通して看護職者への集中ケア実践指導ができる。
②	生命の危機状態にある患者の病態の変化を予測し、重篤化を回避するための援助ができる。
③	生命の危機状態にある患者およびその家族に対し、より良いチーム医療が提供できるよう、関連する他職種との調整を行うことができ、集中ケアの中でリーダーシップが発揮できる。
④	生命の危機状態にある患者に対し、生活者としての視点から適切なアセスメントを行い、早期から回復を支援するための援助ができる。
⑤	看護職者に対し、対談者が自ら解決の方向を見出すことができるよう支援することができる。
⑥	集中ケアにおける倫理的側面を捉え、患者・家族の擁護者として具体的な倫理的配慮ができる。
⑦	集中ケアの質の向上に向けて、自己研鑽できる。

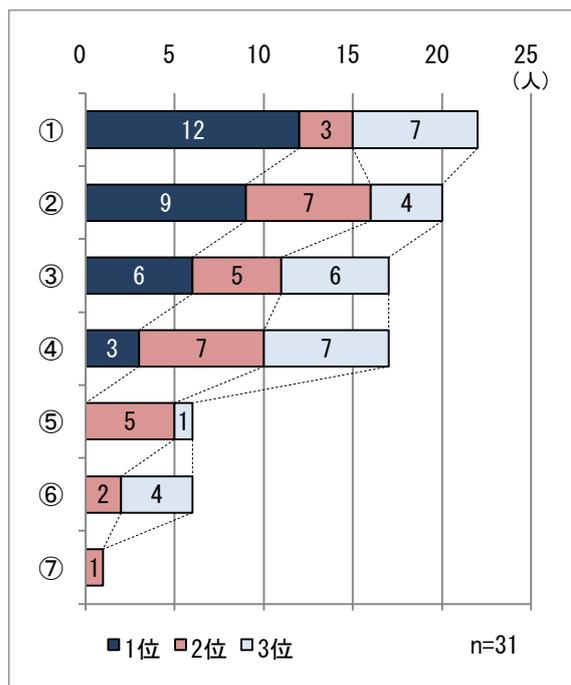


図 11. 認定看護師認定更新者 集中ケア認定看護師に期待される能力 (n=31・上位3項目)

<緩和ケア>

①	苦痛を軽減する専門技術を生かし、チームメンバーへの適切な指導や相談を担うことができる。
②	患者を全人的に理解し、専門技術を用いて苦痛の軽減を図り、患者と家族のQOLを考慮し、療養の場に応じた日常生活の充実に貢献することができる。
③	緩和ケアにおける看護の役割を理解し、施設内および地域におけるチーム医療を効果的に促進できるような役割を果たすことができる。
④	緩和ケアを受ける患者と家族の人権を擁護するために、適切な倫理的判断を行うことができる。
⑤	患者と家族が体験する喪失と悲嘆のプロセスを理解し、グリーフケアなどの適切な支援を行うことができる。

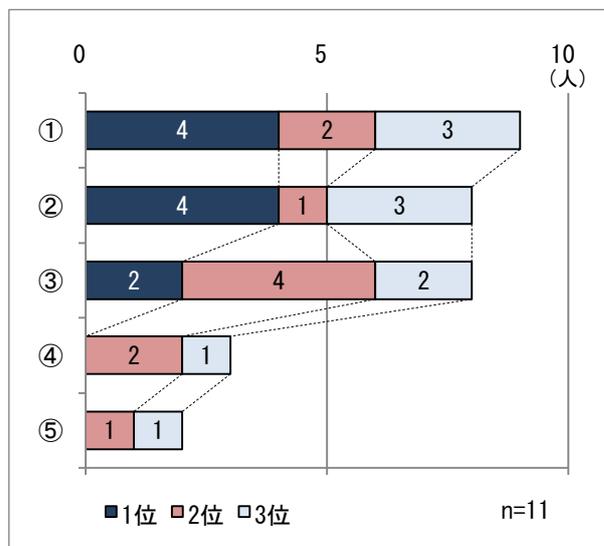


図 12. 認定看護師認定更新者 緩和ケア認定看護師に期待される能力 (n=11・上位3項目)

<がん化学療法看護>

①	がん化学療法看護の実践を通して役割モデルを示し、看護スタッフに対して具体的な指導ができる。
②	がん化学療法薬の特性と管理の知識をもとに、薬物の投与、管理、副作用対策を、安全かつ適正に責任をもって行うことができる。
③	がん化学療法を受ける患者・家族の身体的・心理的・社会的状況を包括的に理解し、専門性の高い看護を実践できる。
④	病院等の組織や医療サービス提供システムを理解し、医師や薬剤師等の他職種と積極的に協働することによって、チーム医療としてのがん化学療法を推進する役割を果たすことができる。
⑤	がん化学療法に伴う看護ケアに対して、看護スタッフの具体的な相談にのることができる。
⑥	がん化学療法が行われる場（病棟、外来および在宅など）の特性を考慮した看護の提供を行うことができる。
⑦	がん化学療法を受ける患者・家族が、セルフケア能力や化学療法中におこる問題へのマネジメント能力を高められるように、適切な看護援助を行うことができる。
⑧	がん化学療法を受ける患者・家族が、十分で適切な情報のもとに意思決定し、治療参加が可能となるように支援することができる。

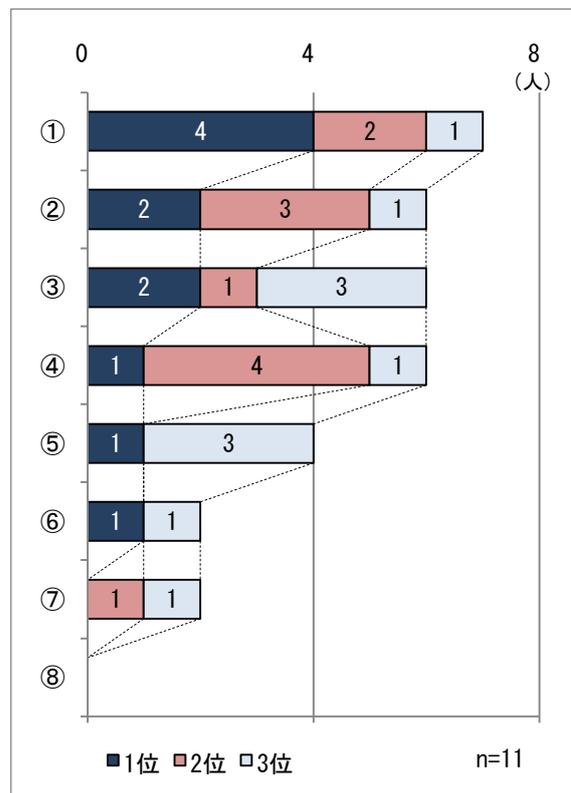


図 13. 認定看護師認定更新者 がん化学療法看護認定看護師に期待される能力 (n=11・上位3項目)

<がん性疼痛看護>

①	がん性疼痛を有する患者に関する最新の知識を持ち、がん性疼痛を有する患者に対して総合的な判断を基に個別的なケアを計画、実施できる。
②	がん性疼痛を有する患者の看護について他の看護職に対して実践的モデルを示し、実践に関する指導を行い、相談に対応することができる。
③	医療チームの中で他職種と協力しながら、がん性疼痛の緩和を実践できる。
④	がん性疼痛に用いる薬剤と薬理作用について理解し、それらを適切に使用し、効果を評価できる。
⑤	がん性疼痛を有する患者や家族が生活の質をより高めることのできる効果的な方法を患者とその家族と共に計画し、援助できる。
⑥	がん性疼痛を有する患者の人権を擁護するために、適切な倫理的判断を行うことができる。

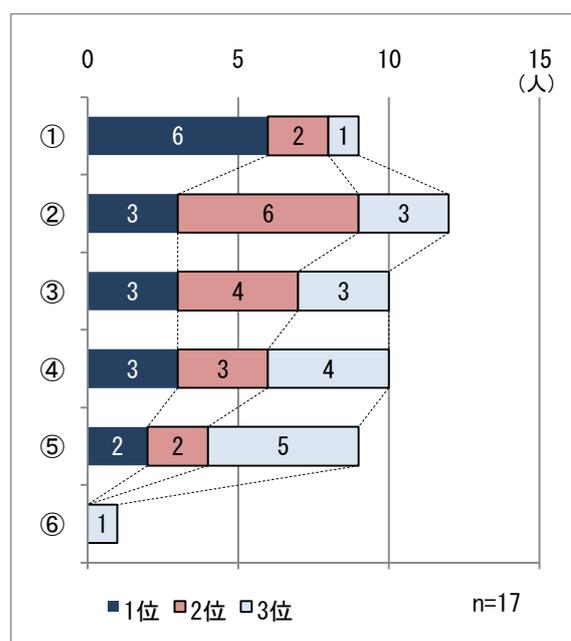


図 14. 認定看護師認定更新者 がん性疼痛看護認定看護師に期待される能力 (n=17・上位3項目)

<感染管理>

① 院内感染の発生状況を説明でき、感染防止技術に基づき、ケア改善のために変革が行える。
② 各施設の状況にあわせて感染管理プログラムを作成することができる。
③ 常に最新の感染管理の知識を持ち、院内感染の予防および管理の実践に活用できる。
④ 多職種とのコンサルテーションを通して、適切な方法で問題解決へ向けて相談・調整が行える。
⑤ 施設内のすべての人々に対して、感染管理に必要な啓発教育を立案し実践できる。
⑥ 各施設の状況にあわせてケア改善のための院内感染サーベイランスを立案し実践することができる。
⑦ 施設内のすべての人々に対して、職業感染防止対策を立案し推進できる。
⑧ 患者の安全な療養環境と施設内のすべての人々の安全を確保するために、その基本的権利を尊重したファシリティ・マネジメントを推進できる。

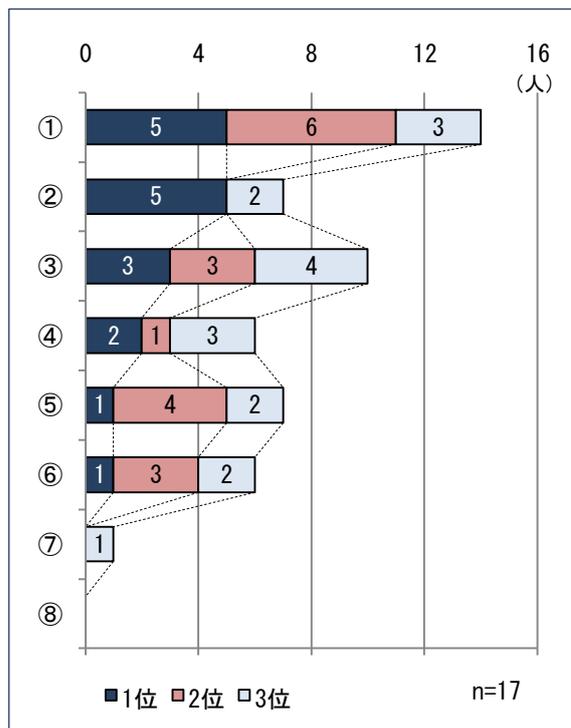


図 15. 認定看護師認定更新者 感染管理認定看護師に期待される能力 (n=17・上位3項目)

<糖尿病看護>

① 糖尿病患者の状況に応じて生じる心理的・身体的・社会的な問題を的確に把握し、その支援方法を計画・実施・評価できる能力。
② 糖尿病教育・看護分野の優れた実践を積み重ねることを通して、この分野の看護の質の向上に寄与する能力。
③ あらゆる分野の看護職に対し、必要な相談・支援ができ、医療チームの中で連携できる能力。
④ 糖尿病患者および家族や重要他者に対して、集団、ならびに個人に必要な指導・教育の計画・実施・評価ができる能力。
⑤ 糖尿病の発症予防ならびに悪化を防ぐために、生涯を見据えた指導・教育ができる能力。

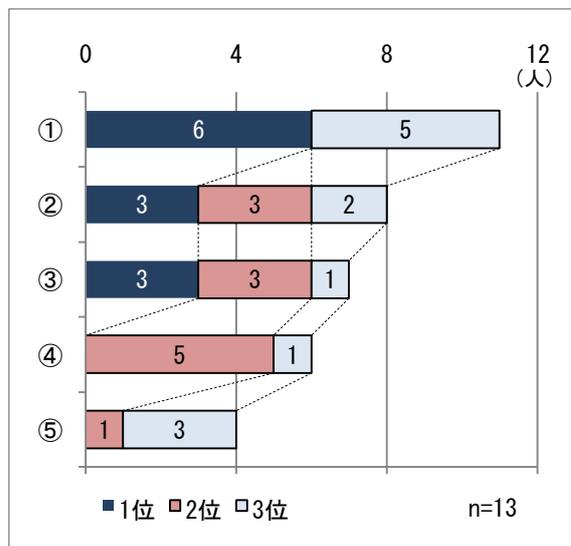


図 16. 認定看護師認定更新者 糖尿病看護認定看護師に期待される能力 (n=13・上位3項目)

<不妊症看護>

①	不妊の問題を抱えている個人およびその家族に、その人が求めている必要な情報提供や相談を行い、治療について自己決定できるよう援助する。
②	生殖医療に関する最新の知識を持ち、不妊症看護の概念と不妊症看護認定看護師の役割・機能を理解する。
③	不妊の問題を抱えている個人およびその家族に対して、個別的且つ継続的なアセスメントを行い、ケアを計画・実施し、その評価ができる。
④	不妊症看護に関わる他の看護者に対し、実践的モデルを示し、実践に関する指導・相談ができ、不妊症看護の質向上のためにリーダーシップがとれる。
⑤	医師やエンブリオロジスト、臨床心理士等、他の専門職者と効果的連携をとりながら、不妊症看護を実践する。
⑥	不妊症治療の特徴を理解したうえで、看護の立場からのリスクマネジメントができる。
⑦	不妊の問題を抱えている個人およびその家族に、その人が求めている必要な情報提供や相談を行い、治療について自己決定できるよう援助する。

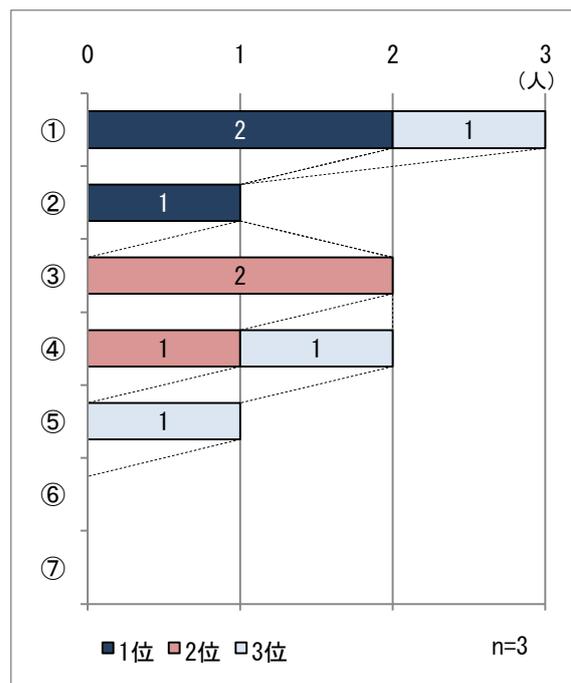


図 17. 認定看護師認定更新者 不妊症看護認定看護師に期待される能力 (n=3・上位3項目)